

# 2022年文部科学省選定作品

# 生きる

大川小学校 津波裁判を闘った人たち

上映会  
×  
講演会

「なぜわが子が学校で最期を迎えたのか」10年間にわたり、  
その答えを探して撮影し続けてきた親たちの記録

小さいのちが遺した  
伝えなくてはいけないこと。  
忘れてはいけないこと。

監督:寺田和弘 プロデューサー:松本裕子 協力:大川小学校児童津波被災遺族原告団、吉岡和弘、齋藤雅弘 主題歌:「駆けて来てよ」(歌:廣瀬 奏)  
助成:文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会 後援:宮城県 製作:(株)パオネットワーク 記給:さくらくびと  
2022年/日本/16/9/124分 ©2022 PAO NETWORK INC. (C) (R) 2022年文部科学省選定作品 東京都推奨映画

## 令和5年度徳島大学地域防災シンポジウム

## 映画『「生きる」大川小学校 津波裁判を闘った人たち』に学び備える ～学校を子どもの命の最後の場所にしないために～

開催日時 **2/24** [土] 13:00~16:20  
2024.

開催場所 **徳島グランヴィリオホテル  
徳島市万代町3丁目5-1**

主催 **徳島大学人と地域共創センター  
徳島大学環境防災研究センター**

共催 **徳島県、徳島県教育委員会**

参加費無料  
申込先着順  
(150名)

2011年3月11日に発生した東日本大震災の津波で児童74人(うち4人は行方不明)と教職員10人が犠牲となった宮城県石巻市の大川小学校。「なぜわが子が学校で最期を迎えたのか」。その真実を求め、石巻市と宮城県を被告にして提起した国家賠償請求の裁判を含む10年間にわたる親たちの貴重な撮影記録をまとめ上げたドキュメンタリー映画『「生きる」大川小学校 津波裁判を闘った人たち』(監督:寺田和弘氏)。  
徳島県でも南海トラフ地震・津波等の発生が危惧される中、映画の上映会と裁判原告代理人を務めた吉岡和弘・齋藤雅弘の両弁護士の解説から、「二度とこのような悲劇を起こさない」「学校を子どもの命の最後の場所にしない」ために、私達がするべきことについて共に学び、備えます。

### タイムテーブル

司会・全体コーディネーター  
徳島大学人と地域共創センター 学術研究員 井若 和久

12:30 会場・受付

13:00 開催挨拶

徳島大学人と地域共創センター センター長 田中 俊夫  
本日の趣旨・予定

13:05 第1部 上映会

映画 『「生きる」大川小学校 津波裁判を闘った人たち』  
(監督:寺田和弘氏)

15:20 第2部 講演会

①解説 「大川小学校の津波裁判の要点と学校防災の教訓」

講師:大川小学校 津波裁判原告代理人弁護士  
吉岡和弘氏・齋藤雅弘氏

②質疑応答「参加者からの質問に対する講師の回答」

16:15 閉会挨拶

徳島大学環境防災研究センター センター長 蔭 景彰

申込期限:令和6年2月18日(日)

申込方法:申し込みは次のアドレス、右のQRコード  
のいずれからエントリーが可能です。

<https://forms.gle/NFCid6o2oFSSMxPd8>



定員:150名(先着順) ※定員に達した時点で締切させていただきます

問合せ先:

徳島大学・美波町地域づくりセンター〔井若〕

〒779-2103 徳島県海部郡美波町西の地字大谷48-1  
(美波町地域共創センター)

TEL&FAX: 0884-70-1274

MAIL: tokushima-minami@tokushima-u.ac.jp

全国民必見のドキュメンタリーです

——尾木直樹（教育評論家 / 法政大学名誉教授）

生きること。忘れてはならないこと。私達にできること。  
震災から12年が経った今も強いメッセージが伝わってきます。

——竹下景子（俳優）

自らの時代の不条理との関わり方を強く考えさせられる、  
そんな力を持った作品です。

——堤 幸彦（映画監督）



# 生きる

大川小学校 津波裁判を闘った人たち

## 「あの日、何があったのか」「事実と理由が知りたい」 親たちの強い思いが、10年にわたる唯一無二の記録となった

2011年3月11日に起こった東日本大震災で、宮城県石巻市の大川小学校は津波にのまれ、全校児童の7割に相当する74人の児童（うち4人は未だ行方不明）と10人の教職員が亡くなった。地震発生から津波到達までには約51分、ラジオや行政の防災無線で情報は学校側にも伝わりスクールバスも待機していた。にもかかわらず、学校で唯一多数の犠牲者を出した。この惨事を引き起こした事実・理由を知りたいという親たちの切なる願いに対し、行政の対応には誠意が感じられず、その説明に嘘や隠れいがあると感じた一部の親たちは真実を求め、石巻市と宮城県に対して国家賠償を求めて提訴に至る。彼らは震災直後から、そして裁判が始まってからも記録を撮り続け、のべ10年にわたる映像が貴重な記録として残ることになっていく——



### 【大川小学校 311当日の行動】

14時 46分	地震発生
50分ごろ	校庭に移動し、そのまま校庭に待機
52分	大津波警報 防災行政無線 (予想津波高6m)
15時 10分ごろ	大津波警報 防災行政無線 (2回目)
20分ごろ	消防車「高台避難」呼び掛け 大川小学校前を通過
28分ごろ	石巻市広報車 「追波湾の松林を津波が越えた」と 「高台避難」を呼び掛け、 大川小学校前を通過
35分ごろ	「三角地帯」への移動を開始
37分ごろ	大川小に津波が到達

## 弁護団はたった2人の弁護士 親たちが“わが子の代理人”となり 裁判史上、画期的な判決に——

この裁判の代理人を務めたのは吉岡和弘、齋藤雅弘の両弁護士。  
わずか2人の弁護団で、原告となった親たちは「金がほしいのか」といわれのない誹謗中傷も浴びせられる中、事実上の代理人弁護士となって証拠集めに奔走する。彼らにとって裁判で最も辛かったのはわが子の命に値段をつけなければならないことだった。それを乗り越え5年にわたる裁判で「画期的」と言われた判決を導く。  
親たちが撮り続けた膨大な闘いの記録を寺田和弘監督が丁寧に構成・編集し、独自の追加撮影もあわせて、後世に残すべき作品として作り上げた。

<https://ikiru-okawafilm.com>



監督 | 寺田和弘 プロデューサー | 松本裕子 撮影 | 藤田和也、山口正芳 音効 | 宮本陽一 編集 | 加藤裕也 MA | 高梨智史 協力 | 大川小学校児童津波被災遺族原告団、吉岡和弘、齋藤雅弘  
主題歌: 「駆けて来てよ」(歌: 廣瀬奏) バリアフリー版制作: NPOメディア・アクセス・サポートセンター 助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会  
後援: 宮城県 製作: (株)パオネットワーク 宣伝美術: 追川恵子 配給: きろくびと 2022年 / 日本 / 16:9 / 124分 ©2022 PAO NETWORK INC. 2022年文部科学省選定作品 東京都推奨映画

### 【講師プロフィール】 大川小学校 津波裁判原告代理人弁護士

**吉岡 和弘 氏** 1947年北海道生まれ。弁護士（仙台弁護士会所属）。サラ金・クレジット被害、豊田商事被害、原野商法被害、欠陥住宅被害などの消費者問題に積極的に取り組む。日弁連消費者問題対策委員会副委員長、全国市民オンブズマン連絡会議代表幹事、宮城教育大学非常勤講師など、多方面で活躍。

**齋藤 雅弘 氏** 1954年生まれ。1980年一橋大学法学部卒業、1982年東京弁護士会登録。現在、日弁連消費者問題対策委員会幹事、経済産業省消費経済審議会臨時委員、一橋大学法学部非常勤講師。東京都千代田区に四谷の森法律事務所を開設。